

2021年**2月14日(日)**

午後9時～11時半 (日本時間)

会場：Zoom開催

【ゲストスピーカー】

中保佐和子 (詩人)

“Sagawa Beyond the English Translation”

エリス俊子 (東京大学大学院教授)

「私の瞳の中を音をたてて水が流れる — 左川ちかの声を聴く」

司会：菊地利奈 (滋賀大学教授)

「私の選んだ一篇」朗読者：

カニエ・ナハ (詩人)

藤井一乃 (思潮社書籍編集長)

佐藤亨 (青山学院大学教授)

奥間埜乃 (詩人)

坪井秀人 (国際日本文化研究センター教授)

左川ちか

生誕百十周年記念会

【左川ちか生誕110周年記念会について】

1911年2月14日、北海道余市に生まれ、『マダム・ブランシシュ』『詩と詩論』等で活躍した左川ちかは、北園克衛がその才能を羨んだモダニズム詩人でした。左川の詩集は、1936年に左川が胃癌で死去した後、伊藤整の編集で出版され、その後、『左川ちか全詩集』（1983年）、『左川ちか全詩集—新版—』（2010年）と、21世紀に読み継がれています。2015年には英訳詩集『The Collected Poems of Chika Sagawa』（2016年PEN Award for Poetry in Translation受賞）が出版され、国際的にも認知されるようになりました。左川の110回目の誕生日を記念し、この会では、詩人、翻訳者、文学研究者、編集者等さまざまな立場と視点から、左川詩の世界を探求し、左川が私たちに遺した詩世界とその魅力を語り合います。

菊地利奈



Photo: Mitsuo Okamoto

中保佐和子 (Nakayasu, Sawako)

Sawako Nakayasu's books include *Some Girls Walk Into The Country They Are From* (Wave Books), *Pink Waves* (forthcoming, Omnidawn), *The Ants* (Les Fignes Press), *Texture Notes* (Letter Machine Editions), and the translation of *The Collected Poems of Chika Sagawa* (Modern Library), as well as *Mouth: Eats Color – Sagawa Chika Translations, Anti-translations, & Originals* (reprint forthcoming, Wave Books), a multilingual work of both original and translated poetry. She is co-editor, with Eric Selland, of an anthology of *20th Century Japanese Poetry* (forthcoming, New Directions). She teaches at Brown University.



エリス俊子 (Ellis, Toshiko)

日本語近代詩・比較文学。「詩的近代の創発 — 萩原朔太郎における詩の現れ」（『創発的言語態』シリーズ言語態、藤井貞和と共編、東京大学出版会、2001）、「表象としての『亜細亜』—安西冬衛と北川冬彦の詩と植民地空間のモダニズム」（『越境する想像力』人文書院、2002）、「左川ちかの声と身体 — 「女性詩」を越えて」（『比較文学研究』第106号、2020）。

カニエ・ナハ (Kanie, Naha)

2010年「ユリイカの新人」としてデビュー、2016年詩集『用意された食卓』で中原中也賞、エルスール財団新人賞。詩を軸にアート、パフォーマンス等の活動行っている。2020年「さいたま国際芸術祭2020」「謳う建築」出展。東京藝大大学院映像研究科主催RAM Associationフェローメンバー。



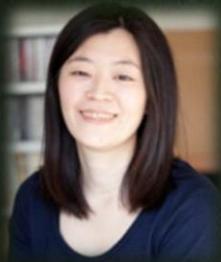
佐藤亨 (Sato, Tooru)

専攻はアイルランド、現代詩研究。著書に『異邦のふるさと「アイルランド」——国境を越えて』（新評論）、『北アイルランドとミュージカル』、『北アイルランドのインターフェイス』、『北アイルランドを目撃する』（以上、水声社）などがある。



藤井一乃 (Fujii, Kazuno)

2000年より思潮社にて詩集出版に携わる。16年～20年『現代詩手帖』編集長をへて、21年より単行本編集に本格的に復帰。これまで手がけた詩集、評論集は380冊ほど。



奥間埜乃 (Okuma, Nono)

早稲田大学文学部卒。出版社勤務を経て現在、順天堂大学大学院博士課程在籍（緩和医療学）。詩集に『さよなら、ほう、アウルわたしの水』（書肆山田、2019）。リーディング・パフォーマンス〈ヒガヨン・セラ〉Higgon Selahに参加。



坪井秀人 (Tsuboi, Hideto)

日本近代文学・文化史。著書『声の祝祭』（名古屋大学出版会、1997、日本比較文学会50周年記念大賞）、『感覚の近代』（同、2006）、『性が語る』（同、2012、鮎川信夫賞）、『二十世紀日本語詩を思い出す』（思潮社、2020、読売文学賞）ほか。

